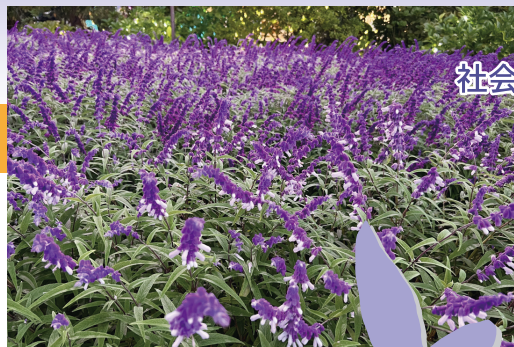




9月の花 アメジストセージ

ピロードのような感のお花で、紫やピンクのお花を咲かせます。ベルベットのような質感の部分は正確にはガクで、花はガクから突き出すように展開しています。冬は地上部が枯れますが、春にまた芽吹いてきます。

とうめい

ニュース 2025.9.1 Vol.289

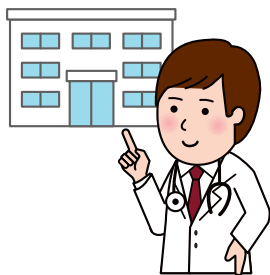
〒243-0034 厚木市船子237
TEL. 046-229-3377
発行者: 河野 昌史
編集責任者: 佐藤 賢治
印刷: (有)タイム21

ホームページアドレス <http://www.tomei.or.jp/clinic/>

副院長就任に寄せて

副院長: 小島 淳夫

TOPICS



このたび、愛川町で学び、厚木高校を卒業した私が、とうめい厚木クリニックの副院長に就任いたしました。

学生時代は、愛川町の豊かな自然の中で多くを学び、厚木高校では弓道

部に所属し、仲間とともに充実した青春時代を過ごしました。山梨医科大学（現・山梨大学）卒業後は、同大学の第二外科に入局し、一般消化器外科・心臓血管外科・呼吸器外科・小児外科など、幅広い外科診療を経験しました。その中で、のちに専門とする血管外科と出会い、大動脈疾患・末梢血管疾患・静脈疾患に対する診断・外科手術・血管内治療など、多岐にわたる治療に携わってまいりました。

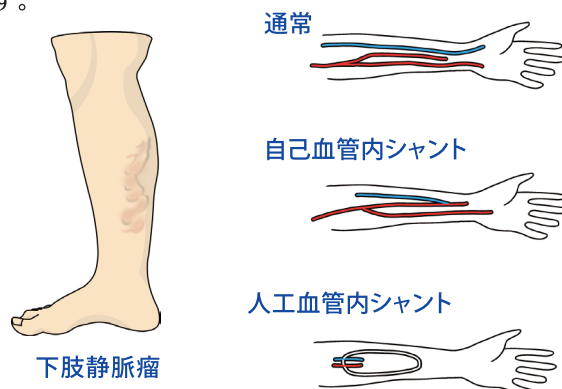
2004年、地元での医療貢献を志して、東名厚木病院に入職しました。それ以来20年以上にわたり、血管外科を中心とした外科診療に従事し、第二外科で培った知識と技術を活かして、大動脈から末梢血管に至るまで、さまざまな疾患に対応してきました。とうめい厚木クリニックは、東名厚木病院の一般外来としての機能も担っております。今後はこのクリニックを拠点に、血管外科医・脈管専門医としての専門性を土台としつつ、総合診療医としても地域の皆様の健康を支える存在でありたいと考えております。

地域の皆様にとって、より良い医療を安心して受けられる場となるよう、体制を整え、改善と工夫を重ねてまいります。なお、東名厚木病院においては、これまで通り血管外科医として、下肢静脈瘤や透析患者さんのバスキュラーアクセス*手

術を中心に診療を継続してまいります。下肢静脈瘤の治療においては、弾性ストッキングによる保存的治療をはじめ、患者さんの状態に応じて、高周波（ラジオ波）による血管内焼灼術・血管内塞栓術（いわゆるグルー治療）・ストリッピング手術・静脈瘤切除術などを適切に組み合わせ、最適な治療をご提供できるよう努めてまいります。

今後は、血管外科医・脈管専門医としての知識と経験をさらに深めるとともに、総合診療医として、また地域社会の一員として、その責務を全うしていきたいと考えています。医療とは、単に技術や知識を提供するだけでなく、地域の方々とのつながりや信頼関係の上に成り立つものです。

私は、生まれ育ったこの地域における医療に貢献することこそが、自身の使命であると強く感じています。副院長としての新たな立場を通じて、地域の皆様が安心して医療を受けられる環境を整えられるよう、これまで以上に力を尽くしてまいります。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。



*バスキュラーアクセス：血液透析を行うための血液の取り出し口（自己血管や人工血管の内シャント、動脈表在化、長期留置目的のカテーテルなど）